

専修大学 SDGs チャレンジプログラム 2020



持続可能な開発目標（SDGs）推進委員会

はじめに

専修大学は、21世紀ビジョン「社会知性の開発」をめざす活動の一環として、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みを開始しております。SDGsは、世界が2030年を目途に解決しなければならない諸課題を17の目標（169の具体目標）で可視化し、その実現のための行動を求めるグローバルアクティビティであります。既に本学は、第一フェーズとして、教員による講義や社会活動などのレベルで多くのSDGsに関わる取り組みが行われていることを確認しております。今後、本学は、第二フェーズとしてSDGsへの大学組織レベル、学生レベル、そして産官学共同レベル、さらには地域レベルでの関与を推進してゆくことが求められます。この趣旨から「専修大学SDGsチャレンジプログラム」は、本学の学生に向けた取り組みの一つとして位置づけております。本プログラムは、学生にSDGsの理念やその達成に貢献することの重要性を理解してもらい、今後、彼らが主体的にSDGsに関わって活動し、さらには、その活動に関して他者への影響力をもった存在に成長してもらいたいとの願いを込めて企画した学内コンテストです。



現在、日本そして世界は、新型コロナウイルス感染症の収束という課題に向けて、全力で対策を講じている只中にあります。本学も例外ではなく、「授業のオンライン化」等の対策を余儀なくされました。本コンテストもこの状況を踏まえて、オンラインでの運営を前提に実行してまいります。多くの学生の皆さんからの応募を心よりお待ちしております。

持続可能な開発目標（SDGs）推進委員会
委員長 ・ 専修大学長 佐々木 重人

1. 開催趣旨

本プログラムは、学内におけるSDGsに対する関心を高める取り組みの一環として、本学が独自に開催する学内コンテストです。参加学生がSDGsの理念やその達成に貢献することの重要性を理解し、さらには他者に影響を及ぼす存在に成長することを期待するもので、本学の在籍学生であればどなたでも参加可能です。なお、コンテストの参加に際して個人単位やグループ（ゼミナール、サークル等）単位での応募を受け付けます。

2. 専修大学SDGsチャレンジプログラム2020 グランドデザイン

- ①「**SDGsそのものの普及・啓発にかかわる取り組み（提案や実践）**」を募集します。
- ②「**17の目標（SDG）から具体的な項目を複数選び、それらの達成に寄与する取り組み（提案や実践）**」を募集します（SDGsの目標は相互に関連性が高く、多くの場合“特定のSDGを追求しようとすると、別のSDGに影響する”という課題に直面するでしょう。本プログラムを通じて、学生各位がそうした現状についての理解を深めることを重視します）。
- ③SDGsに取り組む主体が国家や企業等を包括していることから、より細かな目標達成指針として169のターゲットが設定されていますが、本プログラムにおいては、大括りに**17のSDGをベース**として提案や実践を考えてください。
- ④各コンテストでは、すべての取り組みが“持続的であること”を前提として、**PDCA（※）サイクルを意識した提案や実践**を募集します。
※P=Plan（計画）、D=Do（実行）、C=Check（評価、検証）、A=Action（改善）
- ⑤「専修大学SDGsチャレンジプログラム2020」は、“with コロナ期”におけるSDGsへの取り組みを模索します。各コンテストでは、**2020（令和2）年度内における諸活動をオンラインで展開することを前提とする提案や実践**を募集します。

3. 応募資格

本学学生（学部、大学院）

※個人単位、団体（ゼミナール・サークル等）単位 いずれの応募も認めます。

4. 募集部門

（1）SDGs アイデアコンテスト

- ①応募時点において実践段階にない“アイデア（提案）”を募集します。
- ②コンテストの結果、優れた提案と認められたものを表彰し、本学Webサイトにおいて広く広報します。また、提案を形にするアクションに向けた取り組みを大学がサポートします。
- ③応募に際し、後に示す応募フォームへの申請後、事務局に最終提出資料（文書を想定）を提出していただきます。

（2）SDGs アクションコンテスト

- ①応募時点において、具体的な実践がある方（団体）より“アクション（実践報告）”を募集します。
- ②コンテストの結果、優れた実践と認められたものを表彰し、本学Webサイトにおいて広く広報します。
- ③応募に際し、後に示す応募フォームへの申請後、事務局に最終提出資料（書類、成果物（プレゼンテーションデータ、動画コンテンツ等）を想定）を提出していただきます。

5-1. スケジュール（エントリー～審査の一連のプロセスを全てオンラインで行います）

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| （1）2020年7月20日（月） | 応募要項公開・プレ・エントリー受付開始 |
| （2）2020年8月24日（月）12：00 | プレ・エントリー期限 |
| （3）2020年8月25日（火） | 本エントリー受付開始 |
| （4）2020年10月5日（月）12：00 | 本エントリー期限 |
| （5）2020年11月13日（金）17：00 | 最終提出資料の提出締め切り |
| （6）2020年11月16日（月）～30日（月） | 第一次審査（書類審査） |
| （7）2020年12月上旬（予定） | 第二次審査（プレゼン審査） |
| （8）2020年12月上旬（予定） | 審査結果公表 |
| （9）2020年12月中旬（予定） | 表彰式（※） |
| （10）2021年1月～ | Webサイト「専修大学×SDGs」に情報掲載 |

※表彰式は対面で行うことを想定しますが、新型コロナウイルス感染症の状況により、規模の縮小またはオンラインによる開催となる可能性があります。

5-2. プレ・エントリーについて

「コンテストへの参加意思」を問うエントリーです。

①応募者（団体での応募の場合には代表者）の「氏名」・「学籍番号」

②応募検討しているコンテスト

を伺います。プレ・エントリーをした方は、次の本エントリーの手続きが一部省略されます。

プレ・エントリー時点では審査前に提出を求める提案書等のアウトプットの有無は問いません。多くの方のエントリーをお待ちしています。

プレ・エントリー フォーム

<https://forms.gle/kLMjv6nszp3zTB669>



5-3. 本エントリーについて

「コンテストへの応募」を行うエントリーです。プレ・エントリー時に伺う項目の他、

①コンテストに応募する提案や実践の「タイトル」

②応募する提案や実践が「達成に寄与するSDG」※

等を伺います。

この本エントリーをもってコンテストへの参加が確定します。なお、プレ・エントリーをしていない方でも、本エントリーを行うことが可能です。

本エントリー フォーム

<https://forms.gle/6GXv6PVbAoK5rWYU9>



※受付開始…2020年8月25日（火）

5-4. 最終提出資料について

本エントリーをした方に提出していただきます。提出された資料に基づき審査を行います。

提出していただく資料については、本エントリーをしていただいた方に後日ご案内します。

6. 審査の視点

(1) SDGs アイデアコンテスト

①ソーシャルインパクト

あらゆる人々のSDGsや17のSDGへの理解や共感を高め、パートナーシップ（目標17）を意識しながら、ポジティブなアクションを引き出す期待ができるものであるかどうか。

②SDGsに対する理解・目標間の関連性

SDGsの意味や選定した17のSDGについて、分かりやすく、端的に説明されているかどうか。提案の内容が“17のSDGのいずれに寄与するものか”が明確に説明されているか。

なお、17のSDGが広範に設定されており、相互に関連性が高く、影響しあうものであることから、“寄与するSDGがある一方で反対に作用するSDGがある”場合には、その旨が明記されているとなお良い。

③明日からできるスモールアクション

本コンテストで募集する提案がPDCAサイクルにおける「P=Plan（計画）」に相当するものであることを前提として、“自分たちがコンテスト終了後にどのようなアクションを起こすのか”という点まで触れられているかどうか。

アクションの大小は問わない。SDGsの理念に照らし、小さな一歩でも持続可能なアクションの積み重ねが社会にどのようなインパクトを与えることになるのかが示されるとなお良い。

(2) SDGs アクションコンテスト

①課題の認識

行動を起こすに至った経緯や目的、課題意識が明確にあらわされ、パートナーシップ（目標17）についても考慮されているかどうか。

②SDGsに対する理解・目標間の関連性

SDGsの意味や選定した17のSDGについて、分かりやすく、端的に説明されているかどうか。提案の内容が“17のSDGのいずれに寄与するものか”が明確に説明されているか。

なお、17のSDGが広範に設定されており、相互に関連性が高く、影響しあうものであることから、“寄与するSDGがある一方で反対に作用するSDGがある”場合には、その旨が明記されているとなお良い。

③ソーシャルインパクト

実践の内容があらゆる人々のSDGsや17のゴールへの理解や共感を高め、パートナーシップ（目標17）を意識しながら、ポジティブなアクションを引き出すと期待できるものであるかどうか。

既に結果を得ているアクションにあっては、実践の結果が端的に示されているかどうか。

進行中のアクションにあっては、取り組みの目指すゴールと、現在の進捗が端的に示されているかどうか。

④持続可能なアクション

本コンテストで募集する実践報告がPDCAサイクルにおける「D=Do（実行）」まで進展しているであることを前提として、実践を通じて得られた経験から、次の展開に向けた展望ができていくかどうか。

7. 表彰について

SDGs アイデアコンテスト及びSDGs アクションコンテストについて、審査の結果、優秀と認められた提案や実践を表彰（学長賞、校友会長賞、育友会長賞などを授与）いたします。

8. 応募時に提供いただいた情報・資料等について

(1) 応募時に提供いただいた個人情報は、プログラムの運営に際して使用し、その他の用途には使用いたしません。

(2) コンテストの実施に際して提供していただいた最終提出資料の使用に関する権利は、応募の時点で持続可能な開発目標（SDGs）推進委員会に帰属します。

表彰の有無にかかわらず、応募いただいたアイデアやアクションの内容は、SDGsの普及啓発活動や教育活動などに利用されることを念頭に、一般公開することの趣旨にご賛同・ご了解のうえ応募してください。この場合、使用に関する使用料などは発生しないこともあらかじめお含みください。

9. 応募の際の留意点

(1) 最終提出資料作成の際の留意点

①（必須の要件ではありませんが）社会課題の状況を説明するために統計や数字を使用する場合には、なるべく公的機関が公表しているものや最新の数字を用いてください（※インターネット上の私的なblogやニュース記事、ウィキペディア等の数字は、必ず出典元の資料や確かな調査を元にしたものかご確認ください。数字の裏付けが確認できない場合は、応募いただいても審査の対象外とする可能性があります。）

②引用を行う場合は、以下の文化庁ルールに従ってください。

ア	既に公表されている著作物であること
イ	「公正な慣行」に合致すること
ウ	報道、批評、研究などのための「正当な範囲内」であること
エ	引用部分とそれ以外の部分の「主従関係」が明確であること
オ	カギ括弧などにより「引用部分」が明確になっていること
カ	引用を行う「必然性」があること
キ	「出所の明示」が必要（コピー以外はその慣行があるとき）

・捏造、改ざん、盗用等、不正があった場合は審査の対象外とする可能性があります。

③WebサイトやSNSなど、インターネット上で他人がアップロードした写真や画像を無断で転載することは違法行為です。個人ブログ、Webサイトなどに掲載されている写真を使用する場合には、管理者やサイト運営者から使用許可を得たものを使用してください。

所謂フリー素材を扱うWebサイト内の画像にあっても、加工の可否や使用用途に指定がある場合があります。画像使用前に必ず素材掲載元の利用規約に目を通し、問題ないことを確認したものを使用してください。

(2) 他のコンテストなどに応募・受賞歴があるものと同一または類似とみなされるものは応募できません。

(3) 表彰者には、事後のWebサイト掲載にむけて（誤りがある場合など表現の意図を損ねない範囲にて）後日、若干の修正作業をお願いする場合があります。

【参考】

持続可能な開発目標（SDGs）とは

17のSDG



持続可能な開発目標（SDGs）とは



「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」は、「ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals：MDGs）」（2000年9月、国連ミレニアム・サミット）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標です。

国連加盟193か国が協同的なパートナーシップの下、計画を実行することを確認し、「地球に生きる誰一人取り残さない」という誓いを基本としており、先進国に限らず開発途上国も取り組むユニバーサル（普遍的）な目標として位置づけられています。

「持続可能な開発」。それは、現在のみならず将来を含めて、地球上で暮らすあらゆる人々が幸せに生活していくために必要な各種資源を確保・創出しながら進展する開発を指します。

「持続可能な開発目標（SDGs）」とは、人類と地球及び繁栄のための行動計画です。開発目標には“経済”、“社会”及び“環境”の3つの側面から、17のSDGと、それぞれのSDGに紐づく169のターゲットが設定され、人々の具体的な行動を促しています。



1. 貧困をなくそう

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



2. 飢餓をゼロに

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



3. すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



4. 質の高い教育をみんなに

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



5. ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



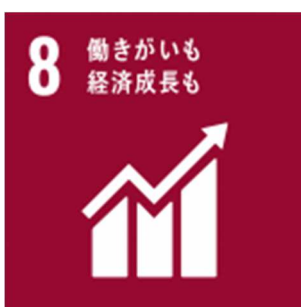
6. 安全な水とトイレを世界中に

すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する



7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに

すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



8. 働きがいも経済成長も

すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する



9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る



10. 人や国の不平等をなくそう

国内および国家間の格差を是正する



11. 住み続けられるまちづくりを

都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする



12. つくる責任 つかう責任

持続可能な消費と生産のパターンを確保する



13. 気候変動に具体的な対策を

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



14. 海の豊かさを守ろう

海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



15. 陸の豊かさを守ろう

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る



16. 平和と公正をすべての人に

持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



17. パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップ（※）を活性化する

※グローバル・パートナーシップとは

SDGsの達成に向けて、“国家間の協力、連携が必要不可欠”という前提に立ち、提唱されているもの。

グローバル・パートナーシップが想定する協力、連携を市民レベルまで落とし込むと“国、政府、民間（企業等）、市民の連携”まで触れられており、「専修大学SDGsチャレンジプログラム」においては、“他者との協力、連携”として読み換えてください。



専修大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています